



世界現代詩文庫

11

土曜美術社

韓国現代詩集

かつてシャーマンの一族たちが歌のなかに人間解放という思想を求めていったのに対して、いまの若い詩人達が獲得しようとする新たなシャーマンの「声」は、人間性回復を求めて古代の土俗により深く根を下ろしている。この回帰現象は、裏返して見れば世紀末の闇を露にするものであろう。その意味においてもさらに真剣に「言葉の現在性」が問われなければならないと私は思う。いまの若い詩人達の仕事は作品をも含めてたいへん示唆的なものが多い。

世界現代詩文庫 ⑪

韓国現代詩集

姜晶中／監修 小野十三郎・小海永二

土曜美術社

世界現代詩文庫／11／韓国現代詩集

訳・編者——姜 晶中

装 幀——蔦本咲子

発行者——笛木利忠

発行所——土曜美術社

東京都新宿区市谷薬王寺町八二番地

〒一六二 電話〇三（二三五）六七二六 振替東京七—九九二九二

発行一九八七年四月一〇日

定価九八〇円

ISBN4—88625—140—4 C0192 ¥980E

世界現代詩文庫

11

韓國現代詩集

目次

李 箱(이 상／イー	サン)……朝。鳥瞰図	・ 10
李 陸史(이 육사／イー	ユクサ)……湖	・ 11
李 永傑(이영걸／イー	イヨンゴル)……赤ちゃんの笑い。古典的な姿勢で	・ 12
李 炭(이 탄／イー	タン)……無題。門	・ 13
李 璟姬(이경희／イー	キョンヒ)……噴水。風の縁	・ 14
李 炯基(이형기／イー	ヒョングィ)……滴。愛の歌	・ 16
李 福淑(이복숙／イー	ボクスク)……見慣れた街路	・ 17
李 裕憬(이유경／イー	ユーギョン)……背叛	・ 18
李 健潁(이건청／イー	ゴンチオン)……整形外科病棟にて。かび	・ 19
李 聖善(이성선／イー	シオンソン)……樹のなかの寺	・ 20
李 秀翼(이수익／イー	スーイク)……声	・ 21
李 昇薰(이승훈／イー	スンフン)……恐怖。希望。敵。名を呼ぶ	・ 22
林 星淑(임성숙／イム	ソンスク)……友よ。三十八度線	・ 23
林 歩(임 보／イム	ポー)……山房動動。月、その別詞	・ 25

吳世榮(오세영)／オ セイヨン)……器。宝石。・27

姜恩喬(강은교)／カン ウンギョー)……貧者日記。自転。・28

姜泰烈(강태열)／カン テイヨル)……都会の旅人。・30

姜禹植(강우식)／カン ウーシキ)……浜茄子の花。蜜柑。柿の花。赤ちやんの爪。命の二倍ほどを。春草

・31

姜桂淳(강계순)／カン ケースン)……同伴。果樹のあいだを。・32

金永郎(김영랑)／キム イヨソラン)……おーめ 紅葉するわ。・34

金素月(김소월)／キム ソウォル)……つつじの花。・34

金顯承(김현승)／キム ヒョソスン)……絶对孤独。・35

金宗文(김종문)／キム ゴンムン)……サボテン。・36

金光林(김광림)／キム クァンリム)……前近代的な男。パリの犬公たち。千斤の憂愁。・37

金芝河(김지하)／キム ジハー)……欠乏。夜中の二時。燃えつゝの喉の渴きでもって。不帰。・39

金春洙(김춘수)／キム チュンスー)……花のための序詩。お前の髪の毛。染み。埤頭にて。・43

金南祚(김남조)／キム ナムゾー)……雅歌。蠟燭。・45

金鍾海(김종해)／キム ゾンヘー)……航海日誌。変身。・48

金洞玄(김동현)／キム ドンヒョン)……草葉の歌。・51

金洙暎(김수영)／キム スーイヨン)……蒼空を。愛。・49

金榮泰(김영태)／キム イヨソク)……蝶。真夏の夜の夢。半紙。・51

金榮錫(김영석)／キム イヨソク)……華嚴行。・53

金光圭(김광규)／キム クァンギョ)……ある志士の伝記。否、そうじゃないのだ。・54

金汝貞(김여정)／キム イヨゾン)……昭陽湖。小鳥。・56

金龍範(김용범)／キム ヨンボム)……貧血。不眠。朝の祈り。龜山仙人伝。・58

金芝郷(김지향)／キム ジヒャン)……愛、その古くならない名前に。・59

具 常(구 상)／ク サン)……江。焦土の詩。・60

權宅明(권택명)／クォン テクミョン)……小雪附近。耳たぶ。・61

高 銀(고 은)／コ ウン)……処女のために。蒼空。断食。・63

申瞳集(신통집)／シン ドンジブ)……山水図。旅路。暁の人。送信。あまりにもたやすく。日が暮れるた

申世薫(신세훈)／シン セーフン)……死んでゆく兵士の、魔羅。かつての春に . 69

辛夕汀(신석정)／シン ソクジョン)……小さな獣 . 70

徐廷柱(서정주)／シオ ジョンジュウ)……蓮に逢いにゆく風のように。春 . 71

成賛慶(성찬경)／シオン チャンギョン)……半透明 . 72

成権永(성권영)／シオン クォンイヨン)……蘭の葉の間に . 75

全鳳健(전봉건)／ジオン ボンゴン)……右。ひばり。夢の中の骨 . 76

鄭漢模(정한모)／チオン ハンモ)……滅入。頂上にて。母 . 79

鄭孔采(정공채)／チオン ゴンチェ)……花村叔母よ。遠い道 . 83

鄭鎮圭(정진규)／チオン ジンギュ)……野っ原の空き家なのだ。暖かな象徴 . 85

鄭玄宗(정현종)／チオン ヒョンゾン)……交感。盃をもって . 86

趙芝薫(조지훈)／チオウ ジフン)……落花 . 89

趙炳華(조병화)／チオウ ビョンファ)……ハルマヌ慰み。このようになるとは知っていながらも。ロバの

涙 . 90

趙鼎權(조정권)／チオウ ジオンクォン)……生命の歯。火のなかで . 93

崔勝鎬(최승호)／チエ スンホー)：ぼくは《息》を吸う。空き地。・ 94

盧天命(노천명)／ノ チオンミョン)：鹿。・ 96

朴木月(박목월)／バク モクウォル)：離別歌。・ 97

朴南秀(박남수)／バク ナムスー)：手。・ 98

朴斗鎮(박두진)／バク ドウジン)：三月一日の空。・ 99

朴在森(박재삼)／バク ジェサム)：恨。遙かでいいのだ。泣き声の焰える秋の江。笛穴。・ 100

朴喜璉(박희진)／バク ヒジン)：海。万歳。海。恋歌。彼女の瞳は。・ 102

朴成龍(박성용)／バク ションリョン)：笛子。日と月と星。郊外。・ 105

朴鳳宇(박봉우)／バク ボンウー)：休戦線。・ 108

朴義祥(박의상)／バク ウィサン)：成年。冬。曲芸。・ 109

朴堤千(박제천)／バク チェチョン)：莊子詩。十二銅版法。聿島。・ 111

朴相泉(박상천)／バク サンチョン)：母。・ 113

韓龍雲(한용운)／ハン ヨンウン)：おしえてください。・ 114

韓何雲(한하운)／ハン ハウン)：麦笛。・ 115

咸惠蓮(함혜련)／ハム　ヘリョン)：言葉・その奇跡。海綿社会　・ 116

洪允淑(홍윤숙)／ホン　ユンスク)：裝飾論。尋ね人。海。わたしたちの、時代の子よ　・ 118

許萬夏(허만하)／フォ　マンハ)：《肉》について。泥土について。銅店駅　・ 122

許英子(허영자)／フォ　イヨンジャ)：蓮。揮発油　・ 125

黄東奎(황동규)／ファン　ドンギユ)：ぼくは輪の形をみれば転がしてみたくなる。小さな愛の歌　・ 126

馬鍾基(마종기)／マ　ゾンギ)：朝の出勤　・ 127

文德守(문덕수)／ムン　ドクスー)：紐を主題とする一つのポエジー。線に関する素描・Ⅱ。線に関する

素描・Ⅰ　・ 129

毛允淑(모윤숙)／モ　ユンスク)：友よ　・ 130

柳政環(유치환)／ユー　チファン)：旗　・ 131

柳齊夏(유제하)／ユー　ジニハー)：変調　・ 131

劉庚煥(유경환)／ユー　キョンファン)：坂道に染まる夕焼け。一人になることを練習しに。湖の物語　・ 132

尹東柱(윤동주)／ユン　ドンジュウ)：たやすく書かれた詩。星に思い巡らす夜。序詩　・ 135

王秀英(왕수영)／ワン　スーイヨン)：近況。冬の栈橋　・ 138

詩
篇

朝

まっ黒な空気を吸い込むのは肺に悪い。肺に煤が溜る。一晚じゅう私はひどく疲れて苦しんでいた。夜は、何だかことが多すぎるのだ。なにかを運んでいたり運んできたり、そのうちに忘れて夜明けとなる。肺にも朝が点る。夜中になにかが無くなったかたと見回してみた。習慣がまだ戻ってきていて、ただ私のぜいたくな本のペーシが何枚か破れているだけだ。瘦せこけた結論の上に、まだ朝日が子細に書かれる。永遠にあの鼻のない夜が来なくなつたかのように。

烏瞰図

十三人の子供が道路を疾走します。
(道は袋小路のほうが適当です。)

- 第一の子供が怖いと言っています。
- 第二の子供も怖いと言っています。
- 第三の子供も怖いと言っています。
- 第四の子供も怖いと言っています。
- 第五の子供も怖いと言っています。
- 第六の子供も怖いと言っています。
- 第七の子供も怖いと言っています。
- 第八の子供も怖いと言っています。
- 第九の子供も怖いと言っています。
- 第十の子供も怖いと言っています。

李陸史

湖

第十一の子供が怖いと言っています。

第十二の子供も怖いと言っています。

第十三の子供も怖いと言っています。

十三人の子供は怖い子供と怖がる子供とだけが集まっています。

(ほかの事情はないほうがかえってよろしいです。)

そのなかの一人の子供が怖い子供でもいいです。

そのなかの二人の子供が怖い子供でもいいです。

そのなかの二人の子供が怖がる子供でもいいです。

そのなかの一人の子供が怖がる子供でもいいです。

(道は突き抜けた小路でも適当です。)

十三人の子供が道路を疾走しなくてもよろしいです。

つつ走ってきて

疲れ果てた心なのに

風に洗われ

蘇る

瞳よ

白鳥を呼び

戯れてみるのも束の間

後ろむきに横たわり

岸影を抱いて　しのび泣く夜半

ほのかな星たちの光を

噛み砕いて静めるあいだに

紫霧

ふたたび湧き
この私を
かこむ。

李永傑

赤ちゃんの笑い

眼を合わせて
初めてほんとに笑ったと
家内が喜んで、ほとんど興奮げだ。

ぼくも眼を合わせ、
しばらく見詰め合っているうちに

眉のあたりが
心なしか緊張し、やがて
それこそ破顔大笑！

さみしいこの世のどこかの街角で
知り合って、互いに忘れさり、
いつの日かふと思い出される
懐かしいその人に出会ったかのように。

古典的な姿勢で

青黒い麦はいっしか穂を出し
すがすがしく波を打ちつづける浅緑の苗床

野菜畑には白い紙の覆いが日増しに連なる

自然の営みはやはり休息を知らないのだ
従順な牛は主人と共に黙々と畑を耕し
若者たちは古典的な姿勢で種を蒔く。

李 炭

無 題

芝生のところに横たわって眼を閉じていると、自分の
体が何かの文字のように思われた。そして、丘を駆け下

りる子供たちのことを考えているあいだ、ふいに木の葉
が一枚脇の横に落ちて、するとさっきの文字の画が入れ
かわった。

へ大きくなったら何になろう。へ

こんなことを考えなくてほんとによかった。ぼくは、
石ころを一つ拾い上げて静かに見ていた。《私》と書かれ
た文字があまりにもはつきり浮かんでみえ、眼を閉じ
た。眼を閉じたり開けたりしているうちに、散らばって
いたノートとか、古びた鞆の紐が枯れた枝のようにも見
えた。

へ大きくなったら何になろう。へ

なぜこんなことを考えなかったのだろうか。ぼくは、
背中の下草をむしりにとって鼻先にくっつけながら、親
しい友人にでもそうするかのように、自分に問いかけ
た。

門

門をかたく閉めておいてから

わたしたちの家族は寝る

わたしたちの家族はその門に頼っている

入ってもらいたくない者たちが入ってくるのを防ぎ

また、この扉の内側はわたしたちの家族がくつろいでい

るところだと

人々にそう言われるのをたいへん満足げにうなずく

一生涯、門は皮膚となって

ともに老いてゆく

ところが、書かなくてもよきそうなことを

わざわざこうして並べて置くのは他でもない

昨夜の夢のせいなのだ

たしかに夢のせいだが、あの時わたしは門のそばをなぞ

かろうついていた

夢の中でさえ眠れずにいたのは

たぶんこう思ったからだろう

わたしは、門そのものではなからうかと。

李璟姬

噴水（V）

しだいに川の水が増してきた。